

第3章 流域の社会状況

3-1 土地利用

菊川流域は、菊川市、掛川市、島田市及び御前崎市の4市にまたがり、流域の土地利用面積の割合は山林等が約32%、水田や畑地等が約49%、宅地等の市街地が約19%となっている。上中流域の丘陵地においてはこの地方の特産品である茶(生葉、荒茶)の生産が盛んに行われ、生産量全国1位の静岡県下で重要な生産地となっている。流域内には、JR東海道本線、東名高速道路などが我が国の根幹をなす交通網の拠点があり、特に、東名高速道路、国道150号のバイパス道路の開通を契機に工業立地が進んでいるなど、この地域における社会・経済・文化の基盤をなしている。また、河口部をはじめ丹野池、横地城跡等が御前崎遠州灘県立自然公園に指定されるほど豊かな自然環境を有している。



図-3.1 流域内の土地利用状況

昭和30年代までの河道改修後、直線化した河道周辺に市街地が発達した。また、昭和40年代からこの地域の特産である茶の大規模な機械開墾が実施され、茶畑の面積の拡大に伴い、畑・果樹園・荒地等が増加している。中・下流域の低平地には水田が広がっている。

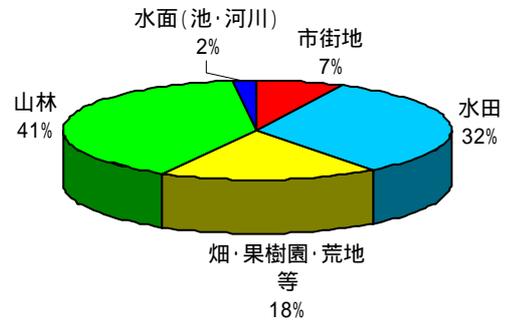
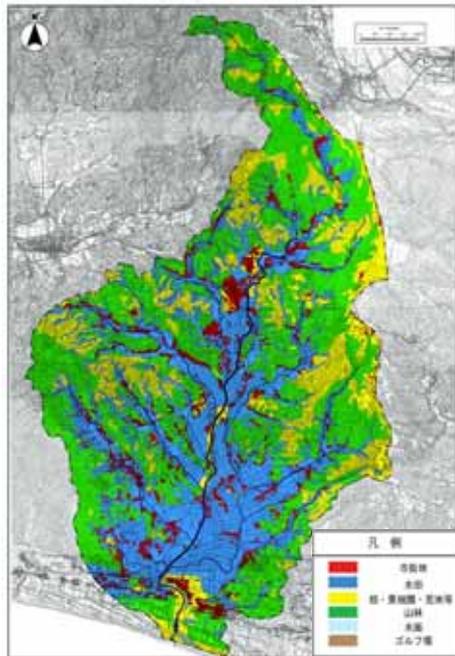
流域の土地利用面積の割合は平成12年の地形図をもとにしている。山地等は山林とゴルフ場、水田や畑地等は水田、畑・果樹園・荒地等、水面(池・河川)としている。



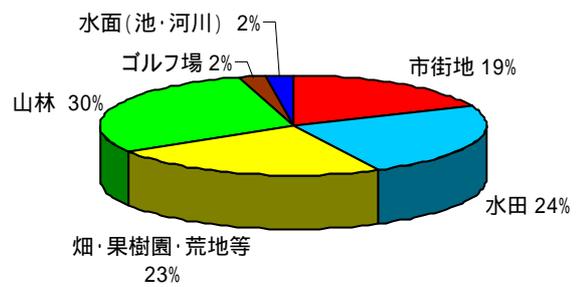
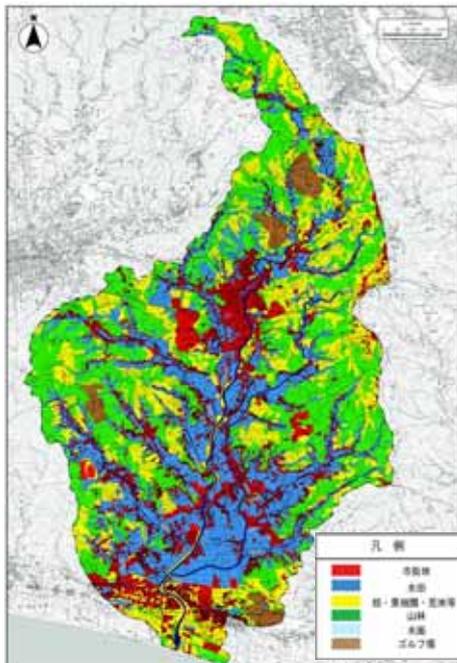
図-3.2 中流域の沿川（市街化の状況）＜菊川市＞



図-3.3 下流域の沿川（市街化状況）＜掛川市＞



流域土地利用の変化(昭和31年)



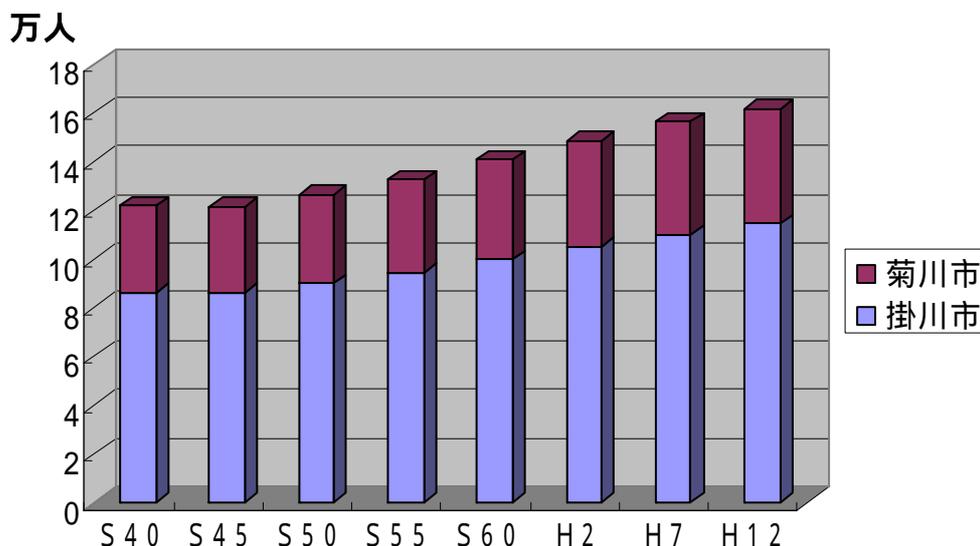
流域の土地利用の変化(平成12年)

	昭和31年	平成12年
市街地	7%	19%
水田	32%	24%
畑・果樹園・荒地等	18%	23%
山林	41%	30%
ゴルフ場	0%	2%
水面(池・河川)	2%	2%

図-3.4 昭和31年と平成12年の流域の土地利用変化

3-2 人口

流域内の主要な市である掛川市（旧掛川市、旧大東町、旧大須賀町）と菊川市（旧菊川町、旧小笠町）の人口は約16万人（平成12年）であり、この35年間の人口の推移を見ると昭和45年にわずかに減少しているだけで、全体的には増加傾向にある。



単位：人

市町村名	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年
掛川市	86,228	86,113	90,160	94,398	99,974	105,030	110,068	114,595
菊川市	35,823	35,365	36,348	38,081	40,783	43,762	46,444	47,165
合計	122,051	121,478	126,508	132,479	140,757	148,792	156,512	161,760

図-3.5 人口の推移

出典：統計センターしずおか（昭和40年～平成12年）

<http://toukei.pref.shizuoka.jp/tokei/index.asp>

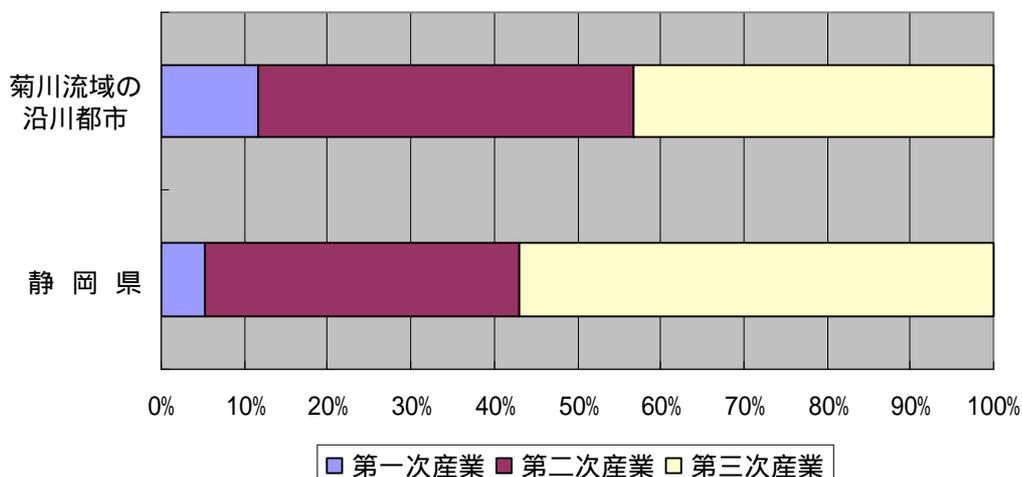
昭和40年～平成2年は国勢調査、平成7年、平成12年はそれぞれ平成7年12月1日、平成12年12月1日の市町村別推計人口に基づく。

3-3 産業、経済

菊川流域を代表する産業は、全国的に有名な茶の生産をはじめ、稲作、ハウス栽培等の農業である。特に、菊川流域の主要都市における茶園の経営耕地面積は約3,600haと静岡県全体における茶園の経営耕地面積の約1/5を占め、「茶の里」と呼ばれる緑豊かな茶園が広がる。また全国シェアで見ると静岡県は茶（生葉、荒茶）で全国1位（平成14年）となっており、菊川流域の主要都市はそのなかでも重要な生産地である。

産業別就業者数の割合から見ると、第二次産業、第三次産業、第一次産業の順で高い割合を示している。また、第一次産業については静岡県全体の割合の倍近いことが特徴と言える。

工業は主に農業が主体であったため立ち遅れたが、東名高速道路、及び昭和47年の国道150号バイパス道路の開通以後、産業立地基盤の整備事業が急速に進み、軽作業を中心とした中小企業が進出してきた。これにより第二次産業人口が増加してきたと言える。



	第1次産業		第2次産業		第3次産業		合計	
	人口(人)	比率(%)	人口(人)	比率(%)	人口(人)	比率(%)	人口(人)	比率(%)
静岡県	107,709	5.4	755,887	37.7	1,139,711	56.9	2,003,307	-
沿川都市	10,528	11.7	40,777	45.1	39,019	43.2	90,324	-

出典：統計センターしずおか

<http://toukei.pref.shizuoka.jp/tokei/index.as>

図-3.6 沿川都市の産業別就業者数

表-3.1 全国と静岡県内のお茶の生産量

品名	静岡県内生産量(t)	全国生産量(t)	対全国比(%)
茶(生葉)	168,500	394,600	42.7
茶(荒茶)	36,900	84,200	43.8

出典：静岡県勢要覧（平成16年度）

発行：静岡統計協会

3-4 交通

菊川流域はJR東海道新幹線、JR東海道本線、東名高速道路、国道1号、国道150号が通り、東西交通の便が良好である。流域の周辺には掛川駅（JR東海道新幹線、JR東海道本線）、菊川駅（JR東海道本線）、掛川インターチェンジ、菊川インターチェンジ、相良・牧之原インターチェンジが位置している。

また、菊川流域の上流端に第二東名高速道路のルートが予定されている。

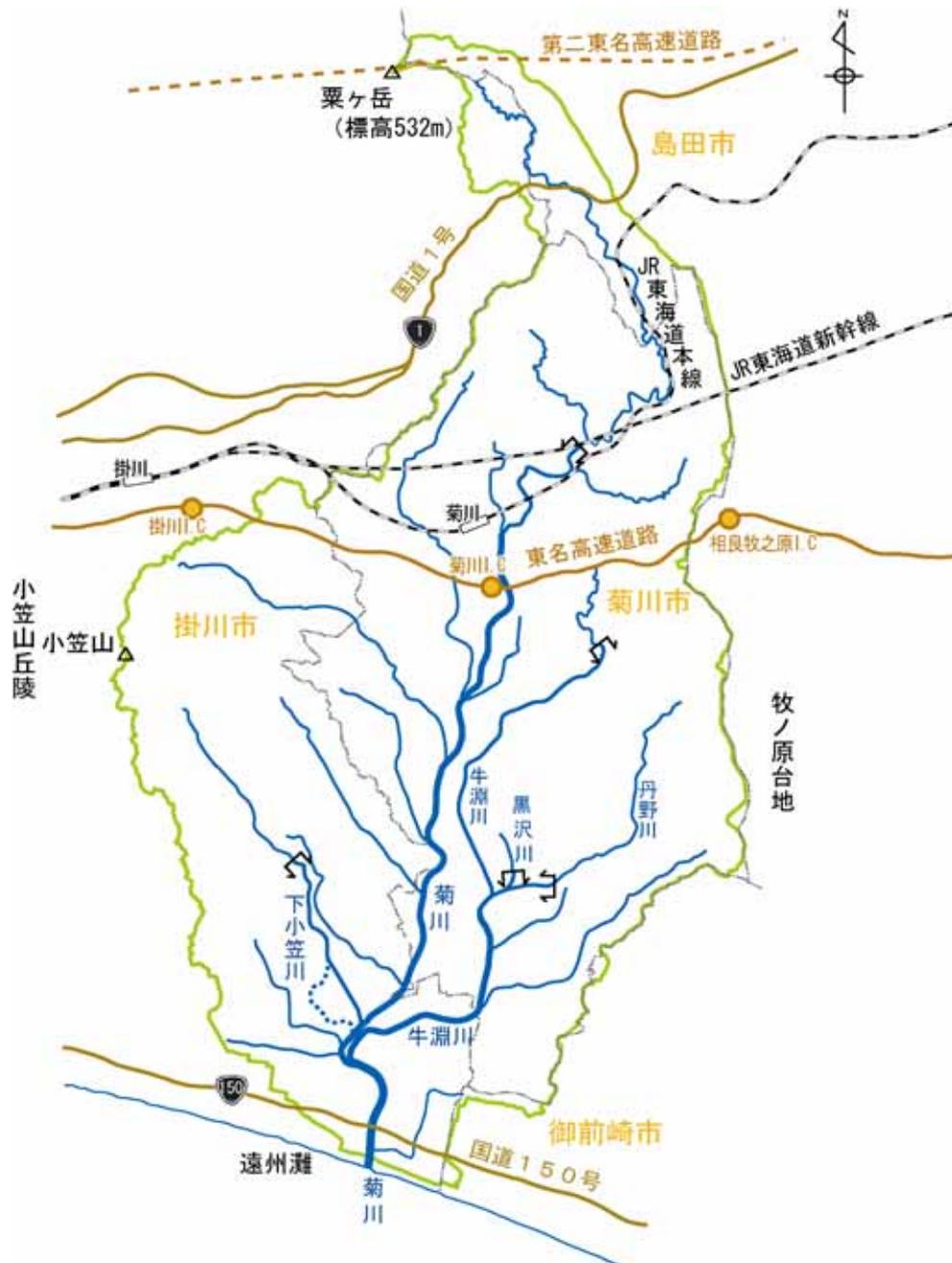


図-3.7 菊川流域の交通網図